

上下伊那郡民諸賢に訴ふ

伊那電鐵株式會社に於ける從業労働者が同盟罷業を開始してからも十餘日になりませう。郡民諸賢は交通、運輸上の多大なる御迷惑を感じて居られることとせう。そして何故に同盟罷業をしたかと考へる前にその不便、迷惑を痛感し、それに會社の逆宣傳を信じて労働者をのしつて居られる人々もあることと思ひます。然し諸賢、先づ最初に何故に同盟罷業をせねばならなかつたかを考へて下さい。私共隣郡、諏訪にある労働者及青年有志は兄弟である伊那六百の從業労働者の爲に諸賢に訴へる次第であります。

私達労働者も諸賢と同じ人間であります。食はねばなりません。家族を養つて行かねばならぬのです。それにも拘はらず伊那電從業労働者の日給は一日働いて五十銭から最高でも二圓十三銭で平均僅かに一圓〇六銭位です。この賃金でどうして家族を支へる事が出来ませう。食へぬが故に定時間の勤め以上に尙深夜まで働いて辛くもその生活を支へて居るのです。この生活苦は労働者をいやが上にも疲労させます。そして疲労の結果は餘りにも明瞭です。乗客取扱の不備、事故——これは實際生活苦に同情して下さる皆様は無理からぬ事だと推察して下さい。

それで伊那電從業労働者は自らの地位向上と事故防止等の爲に労働組合をつくりました。これは労働者も人間らしい生活の出来るやうに改善するが目的であると同時に生活の壓迫よりのがれて落ち着いた從業の結果業務のよりよく改善されて事故の減少、乗客——即ち諸賢への便宜の徹底を計る爲につくられたのです。處が會社では何と思つたかその労働組合を恐れ狼狽してその組合の擴大を防ぐべく組合の爲に盡力して居た辰野驛長、羽場驛長、北殿助役を敵首しました。諸賢!! 唯この一つの事實だけでも會社が如何に横暴極りなきものかがはつきり解るのです。會社をして今日めらした原動力たる伊那電從業労働者の爲と郡民諸賢の便宜の爲に働く人は會社にいつて何で都合が悪いでせう。諸賢に對する會社の誠意は何處にあるのでせう? その三名の敵首問題で伊那電從業労働者は會社と戦ひ兎に角労働者の主張を入れさせました。しかしその復職期限の六ヶ月後の結果は實に意外とするものでした。それは爭議團の發表の如き結果となりつひに同盟罷業は決行されるに至りました。

伊那電從業労働者の要求は今日労働者として望む最低限度のものであり少しの無理もない事でありませう。實に當然過ぎる程當然の事でありませう。賢明なる郡民諸賢も當然だと思はれる事と信じます。しかし諸賢よ、その最低限度の要求をすら會社は容れないのです。それに對して労働者の對抗は一つに團結、罷業しか他にないのであります。賢明なる伊那郡民諸賢よ、この労働者の地位を諒せられよ。

今や伊那電從業労働者は皆様の不便に對して悲しみつゝ横暴極りなき會社と闘つて居ります。その戦ひは以上の如く労働者が人間らしくならうとする戦ひであると同時に業務上の完全を期さうとして會社に對する要求貫徹の叫びであります。四百餘の罷業團は今堅い結束を以つてあらゆる苦難を闘ひつゝその目的達成に努めて居ります。

それに對して會社はあらゆる切崩を構じつゝあります。あらゆる手段を以て労働者の地位をおとし入れやうとして居ります。然し労働者は郡民諸賢の力ある應援の下に尙初志の貫徹の爲にその壓迫に耐へて闘つて居ります。而して今や罷業團の血は高潮に達せんとして居ります。その熱は横暴なる會社に對して赤裸な戦を挑んで居ります。その血と熱とを何處に捨て去れば良いのか? 最早最も危険なる程度まで進まうとして居ります。いやもう進みつゝあるのであります。

賢明なる伊那郡民諸賢!! 今状態は諸賢の公平なる批判を要求して居ります。安い賃金で酷使しながら労働者の一年の収入の何倍かの交際費を使つて會社は儲からぬと言ふ重役達の専制極りなき會社に對して諸賢が公正の批判をして下さい。そして會社と労働者の何れが正當であるかをはつきり見て下さい。その時労働者が何故罷業をせねばならなかつたかが解ると思ひます。涙を呑んで皆様に御不便を與へて居る罷業の意味が解つて戴けると思ひます。總ての責任は會社にあるのです。會社は今日早速労働者の要求全部を入れ一時も早く元の状態にもどし郡民諸賢の御不便を取りのぞく義務があるのです。しかし横暴なる會社にその誠意が何處にあるか理解に苦しむ状態です。罷業は今危険状態にあり尙續く運命にあります。そしてあらゆる犠牲を拂つて闘ひつゝある罷業労働者も焦り氣味になりつゝあります。諸賢の深い理解と熱

労働者の勝敗は一に郡民諸賢にかけられて居ります。諸賢の深い理解と熱